

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000655		
法人名	総合ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームひまわりの丘(1F)		
所在地	小樽市緑1丁目28番8号		
自己評価作成日	平成25年8月19日	評価結果市町村受理日	平成25年10月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JieiyosyoCd=0172000655-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成25年9月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年は管理者始め職員の大半が入れ替わり、事業所として非常に厳しい状況を迎えることとなりました。そこで一からホーム運営を見直し、より良い「ひまわりの丘」を目指し、その基盤を築くべく、職員一同がむしやりに日々邁進してまいりました。その甲斐もあり僅かずつではありますが、事業所の運営も安定し、ようやくケアの質というものにこだわっていける事業所となってきたと思っております。ひまわりの丘は男性職員が多く実に7割が男性となっており、一種独特の雰囲気を出しておりますが、それが味でもあります。また、少数精鋭の女性職員もみんな元気で明るく、とても賑やかで明るい事業所となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市の住宅街にある2階建・2ユニットの事業所。幼稚園児が事業所を訪問したり、毎年神社の神輿が駐車場まで入り利用者は交流を楽しみにしている。9月の敬老会には近隣住民にも参加を呼びかけ更なる地域との交流を計画している。バーベキューに自家畑でとれた野菜が使われ収穫を喜びながら食事を楽しんでいる。定期の避難訓練とは別に、事業所内部でさまざまな災害・状況・出火場所を想定して訓練を続け、その結果マットレスに乗せて搬送するのがもっとも適切であることを発見した。避難の際に利用者の移送方法を示すために、居室の入り口ごとに「担」「独」「護」の張り紙をして工夫をしている。実行してみて、考えるというサイクルができています。また、うちの親にはリハビリの時間を増やしてほしいとのある家族の要望を踏まえ、利用者独自の日課表をつくり、ニーズに合った個別ケアの実施を始めた。職員は様々な年代で構成され、若手の男性が多く、うまくかみ合い連携が取れていて活気にあふれている。去年は2人の介護福祉士合格者を出し、今年は5人が受験する予定である。よりよいケアを目指して日々取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員全員が共有出来るよう新人教育や尊厳・認知症等の研修の際に補完している。また事業所理念は抽象的な部分もあるので、より職員に分かりやすくするために各フロアごとにフロア理念を作成し、日頃から理念を意識したケアを提供できるよう心がけている。	事業所理念「地域で暮らす一人として楽しく安らぎのある生活を支える」がある。加えて職員の提案で各フロアごとに、「心の距離を縮め、楽しく笑いあっている環境」などの独自理念をつくり、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議・町内会の祭典(子供神輿)等では、目立った交流は持っていないものの、今後の予定として、敬老会や事業敷地内の畑やフリースペースを整備活用し交流を図っていきたい。	6月には園児18人が事業所を訪問し、歌や遊戯を披露し、似顔絵を描いた。絵は、幼稚園の発表会で展示された。7月の町内の祭りで、子供神輿がホーム駐車場まで練り歩き、利用者は毎年楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を地域の介護拠点として集会や相談窓口として活用できないか模索はしているが、町内会長不在が長い事もあり、情報の伝達や企核発信の担い手がおらず、難しいのが現状。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が、ホーム側からの一方的な報告の場とならないよう工夫を行い、本年度からは「ひまわり会」と名称を変え、参加者全員で事業所を盛り上げていくという思いで取り組んでいる。また、会議の中で頂いた意見等は真摯に受け止め改善等に繋げ、次回の会議時に経過等について報告を行っている。	2ヶ月に一度、地域代表・包括支援センター。家族が出席して開催。事業やヒヤリハットの報告のほか、様々な質問に回答し、問題点に関して改善に向けた提案を受けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	後見人の付いている方については、利用者様の現状やサービス内容について定期的に報告を行い、その際に今後の希望や意向等を確認している。また制度上分からないことがあれば都度介護保険課や生活支援課に相談を行っている。	運営推進会議出席の職員を通じて現状を伝え、余興ボランティア等の情報を得ている。不明な点は気軽に担当課に問い合わせている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	まだまだ未熟な部分もあるが、リスク委員会を中心に全ての職員が身体拘束に対して、「基本的にはいけないこと」という意識をしっかりと持ち、日々のケアの中で振り返りや他職員との確認を行っている。施錠については日中は解放、夜間については防犯上・エスケープの観点から行っている。	事業所内委員会で、身体拘束をしないケアの重要性、身体拘束や虐待の実例を検討している。「ちょっと待ってね」が拘束になりうることを理解し、その場合どう対応すればいいのかを具体的に考え、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を定期的に行い、その中で尊厳や身体拘束について理解を深めるように努め、身体・精神等の身体拘束を行わない様に心がけている。また、利用者様の敬称についても尊厳を損なうものになっていないか職員間で互いにチェックを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が2名いるものの、研修等の機会を持っていないため成年後見制度に関する理解はまだ低いというのが現状。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約については、本人・家族様同席の下、全ての内容を読み上げ、説明を行い、不明な点が無いか確認を行ったうえで契約を行っている。また契約内容変更の際は、口頭、文書等において変更内容に説明を行い、契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は当然のこと、家族様が来所された際にも、管理者・職員より近況の報告を行い、都度要望や不満など聞き取る様に心がけており、拳がった要望・不満については極力早急に解消出来るよう対応している。	家族が頻繁に来所する事務所であり、そのときは会話を心がけ、何気ないやり取りから家族の意見や意向を引き出している。リハビリを望む家族の意向を聞きだして、実行に移した。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は半年に一度の定期面談の他に、1カ月に一度のスタッフ会議の場での意見交換や、必要があれば随時話を聞く機会を設けており、職員の意見は出来るだけ聞くように努め、内容を精査した上で、反映させるようにしている。代表者へは基本的に管理者からの報告となっている。	会議や面談の他にも、職員は気軽に意見を言える雰囲気がある。例えば職員の意見から、事務所のドアをできるだけ開放するようにして、利用者が何時でも入ってこられるようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の健全経営の観点から、人件費の削減を昨年より実施しており、勤務時間の短縮や時給の見直しを行い、職員の業績や勤務状況に反映できていない面がある。その中で、個々の職員がやりがいや向上心をもって働けるように研修機会の充実や、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や、経験年数、モチベーションを考慮し、個々のレベルにあった研修機会を提供できるよう、職員から希望の拳がった研修を参加希望者のみを対象に開催する個別研修や、職員全体を対象にした内部研修を能力・希望別に実施。また同様の要領で外部研修の参加も促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GHの相互訪問研修において、適宜情報交換を行っているものの、当事業所においては職員の不足もあり、満足に交流できていないのが現状である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各利用者様に対して生活担当者を各スタッフが受け持ち、利用者様の日頃の様子を観察と共に会話の中で、不便さや不安について聞き取り、感じて、利用者様により住みやすい生活提供ができるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークや入所前の見学や電話相談の段階で、家族様と話し、有る程度心配事や要望などを把握できるように努め、できるかぎり不安や心配無く入所して頂けるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際にご本人様と家族様の意向が合っていないことが多く、そのためGHでの生活に慣れ落ち着かれるまで、本当のニーズが表出しづらいの傾向があるので、大抵の場合は1日も早くGHの生活に慣れて頂く支援を中心に提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に介護を全部行わずADL向上のため食器拭きなど本人様にできることを行っていたただきできない部分は積極的に援助行い自立支援に努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的状態報告はもちろんのこと、ご本人から希望や訴えがあれば、面会や受診の同行、または一時帰宅などの協力要請を行い、ご本人様と家族様の関係性が脆弱にならぬように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の受け入れや自宅及び友人宅、または整容(馴染みの理美容室等)の外出は、出来る限り希望に添えるよう支援している。	風呂場などワンツーマンで時間が取れるときは、昔の思い出や昔なじみについて積極的に話題を向け、懐かしいひと時をすごしてもらえるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良い関係を保つよう、利用者様の声を取り入れ、席替え配置換えなど環境づくりに動いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所等の場合においても、今後の相談や連絡があった場合は、できる範囲で協力するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活担当を配置したことにより、より一層ご本人様の意向や変化に気付くことが増えている。また、利用者本位・自己決定の概念についてはまだ不十分な点もみられるが、概ね利用者本位の検討が為されている。	利用者それぞれの思いを的確に捉えるために担当制をとる。お風呂の時間などで、裸の付き合いをしながらじっくり時間をとって、利用者の意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	大抵の場合入所時に家族様より聞き取りするが、曖昧な情報も多く、数も少ないため、家族様の面会時や日常の中でご本人様から聞き取りを行っている。但し、家族様のいないもしくは少ない利用者様は情報も希薄である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各生活担当を中心に、各利用者様のADLや日課、意向の把握に努めており、個別プログラムを作成している利用者様もいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主に生活担当者が毎月本人や家族、職員間で情報収集を行った上でモニタリングを行い、ADLや意向の変化を報告し、介護計画に反映させている。	最初の介護計画は、既往症や生活歴などを基礎に、利用者や家族から意向や目標を聞き取り、暫定的なケアプランを作成して、一ヶ月間様子を見て決定している。その後も、新しい情報や観察、感取を取り入れ随時更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に加え日々の業務の中でミーティングや申し送りを行い職員間の情報共有を図り、それらの記録を参考にモニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者との接遇の中で発見したニーズは責任者管理者へ打診し可能な限り実現していく努力をしている。たとえば野球観戦や一時帰宅など実践。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の幼稚園児を招待したり子供神輿の来所など可能な限り地域との連携を図りながら利用者様にも楽しんで頂く機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に往診病院を決めているので、入所時に説明を行うが、ご本人様や家族様の意向があれば、以前からのかかりつけ医を受診できるように支援している。	従来のかかりつけ医への受診も職員が同行することが多い。受診後は速やかに、電話や手紙で受診結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容			
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員が不在の為、利用者様に体調の変化がみられる場合には、主治医の病院に報告を行い、指示を仰ぎ受診等の対応を行っている。また、隔週で往診があるので、事前に情報提供を行っている。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、出来る限りの情報提供を行い、入院中においても、病院や家族様と都度連絡調整を行い、安心して入院治療できるように努めている。医療機関との関係性作りは満足とはいえ、切迫した事態の際は、往診担当医師の調整に頼らざるを得ないのが現状である。					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の指針については、入所時にご本人様及び家族様に説明し同意を得ている。また、入院時等に際しても予後の見通しが明るくない場合には再度説明確認を行うようにしている。尚、現在看護職員が不在の為、当事業所においては終末期ケアに対応できない状態である。	契約時に、重度化や終末期の対応に関して、指針に基づいて説明している。事業所で何ができるのかを説明して、同意を得ている。重度化が予想された時点で再度、説明をしている。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを基に、年に一回程度研修を行っており満足とはいえない状況であるものの、各職員とも急変時にはマニュアルに沿った行動が概ね行えている。今後、消防署等の協力を得て救命救急技術講習等を実施予定。					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練については、年に2回日昼・夜間想定で消防署へ協力要請を行い大規模な訓練を行っている。適宜、防火管理者を中心に小規模な自主訓練も行っている。	消防が参加して、夜間も想定した避難訓練を、年2回行っている。他に防火管理者を中心にして、さまざまな災害・状況を想定して自主訓練を実施。避難方法など、実際に試して最適な方法を見つけている。	事業所や認知症の利用者を理解して、災害の時に実際に支援してくれる近隣住民を一人でも多く確保することに向けて、まず敬老会に住民を招くなど、地域住民と親しい間柄を作るところから始め、地域住民の協力体制を構築することを期待する。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事務所理念「個の意思と尊厳を重んじる」を常に心がけ、尊厳について研修や意見交換を重ねて言葉遣いなどに常に配慮を行っている。	利用者それぞれの個性を大切にしている。職員は、介護の最大の報酬は「利用者のえがお」であり、楽しんでできる介護だから利用者の尊厳を確保できると考えている。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる利用者様には本人の意向を汲み、自己表出の難しい利用者様には職員間で情報を共有し本人様の意向に沿うように勤めている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人と相談し個別日課を決めるなど一人ひとりのペースを大切に配慮している。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、整容援助してからフロアに誘導している。外出時は身だしなみなどアドバイスしている。髪の毛も職員が必要に応じて散髪している。					

グループホームひまわりの丘(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きなど喜んで行って頂ける方には積極的に協力していただいている。	食事は職員も一緒に会話を交わしながら、楽しく食べている。炊で取れたトマトや茄子が、食卓の話題になっている。後片付けを進んで手伝う利用者がいて、職員と一緒に作業をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し専門業者を利用している。食事摂取量、水分摂取量など記録に残し急激な変化がないように勤めている。利用者様の状態に応じて量を決めて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に毎食後一人ひとりの口腔ケアを行うようにしている。ご自分で行える方には声掛けをして実施していただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力、トイレでの自律排泄してもらえよう安易にリハビリなど使わずコールなどで知らせてくれるよう声掛けしている。	失敗をなくし、トイレでの自立排泄を支援するため、尿意を伝えられない利用者も、排泄チェック表や表情をとらえて、トイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り集まってラジオ体操を行うなど運動行える環境づくりをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前午後問わずいつでも入浴できるような体制をとっている。ご本人が希望すれば適宜に対応している。	入浴時を積極的にコミュニケーションの機会と捉え、昔話を聞いたり歌を歌って、利用者にとって楽しい時間になっている。入浴剤や米ぬか袋を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意向を伺い、わずかな時間でも居室で臥床していただくように声掛けしている。臀部除圧必要な方は定期的に時間をとって臥床していただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋つづりなどフロアに置き適宜閲覧できるような配慮している。確実に服薬を行って頂けるよう薬杯を使用し服用していただいている。血圧の薬の処方変更時には一定期間経過観察状態の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やりなど役割を持ってもらい、趣味や特技を活かしていただけるよう支援している。		

グループホームひまわりの丘(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を取り入れ外出支援の実行に努めている。季節に応じた外出支援を行っている。	できる方は畑仕事や洗濯物干しなどで日常的に戸外に出ている。ゆったり日向ぼっこをする方もいる。季節に応じて花見やお祭り見物で外出する。3人の利用者が札幌ドームに野球観戦に出かけ、日ハムの試合を楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて買い物支援など行っている。財産管理の上で消耗品を押さえなければならない方に関しては配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関してはご本人が希望すれば対応するように配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風呂、フロアなど常に清潔感を保てるように清掃している。便座など衛生面を考慮しジアノック噴霧を行っている。	明るく、広い居間には、季節の折り紙の花が飾られ、季節感がある。冬は濡らしたシーツで湿度調節をしている。手作りの日めくりを利用して、見当識の保持を心がける。利用者による職員の似顔絵が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアソファを誰でも使えるように開放している。フロアテーブルの配置換えなど必要に応じて行って利用者様の居心地のよさに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限りご本人の持ち物を優先し安全面に考慮し暮らしやすさに配慮している。	使い慣れた家具や見慣れた小物を持ち込み、それぞれ居心地良い居室になっている。大好きなファイターズの選手の写真を飾る利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	機能訓練の為の用具は不足している。現在あるものを利用し筋力低下を防ぐよう努力している。利用者様の危険を回避する為福祉用具を利用するなど配慮している。		